

登録コード	L1241400		開講年度	2026			
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション発展演習						
英文授業名	Art Communication: Advanced Workshop Seminar						
授業タイトル	芸術コミュニケーション発展演習						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			芸術文化の歴史の多様性を理解し、その価値や意義を多面的に 判断することで、創造的な未来を切り拓くことができるように なる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現で きる高度なメディアリテラシー			高度なメディアリテラシーをもって、芸術文化の情報を適切に 集約・分析・表現できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			受講者、参加作家、関係者、地域との協議・協働を活かしなが ら、多様性に関かれた企画を構想できるようになる。			
【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			受講者、参加作家、関係者、地域との協議・協働を活かしなが ら、多様性に関かれた企画を実現できるようになる。				
授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	アートリテラシーをさらに実践的に展開する「芸術実行力」の獲得を目指す。受講者が自らの関心にそってキュレーター、エデュケーターの役割を担い、自主的な企画活動を進めると同時に、討議を行い、コミュニケーション能力と問題解決能力を高めていく。 展覧会あるいはワークショップイベントの開催を目標としながら、コンセプトの討議、アーティスト・芸術関係者との交流、展覧会の見学、企画立案、業務分担・運営、関連プログラムのデザインと実践、成果の分析とドキュメンテーションなど、必要なあらゆる活動を行う。 担当教員が学芸員としての実務経験を活かして授業を進める。 なお、地域における芸術実践との協働は、信州アーツカウンシルの協力を得て実施する。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 企画会議（1）枠割分担、意見交換 3. 学外調査 4. ゲストとのミーティング 5. 企画会議（2）概要決定 6. 企画準備（1）作品関連 7. 企画準備（2）会場設営 8. 企画準備（3）広報 9. 会場設営 10. 会場運営 11. 関連企画運営 12. 会場撤去 13. 成果分析 14. 記録作成 15. まとめと15分の授業アンケート 期末試験の有無 なし						
成績評価の方法	各回の課題20%、協議への参与20%、担当活動への取り組み20%、レポート40%						
成績評価の基準	事前事後学習に努め、授業の目的を理解して活動できれば「水準にある」。問題・課題発見に努め、その解決・改良方法を提案し、実施できれば「やや上にある」。個々の活動について、リーダーシップを発揮できれば「かなり上にある」。活動に深く関わり、また、授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が進められていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	授業時間中には主に発表・討議をおこない、統一的な課題の発見・設定を試みる。 その発表・討議の素材収集が「事前学習」となる。 発見・設定された統一的な課題の解決・展開のための徹底的なリサーチが「事後学習」となる。						
履修上の注意	授業時間外の各自の自主的なリサーチが不可欠。現代美術、異文化理解、地域とのコミュニケーションなどに強い関心を抱く、実践志向の学生の参加を期待している。 企画内容やゲスト作家は前期の芸術コミュニケーション基幹演習 を介して決定されるので、あわせて同演習の受講を推奨する。 展覧会・イベント等開催時期を中心に、授業時間外の活動が増える。その点を理解した上で、履修してほしい。						

質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp
教科書	なし。
参考書	熊倉純子監修『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』水曜社、2014年 アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって』フィルムアート社、2018年 山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 他、授業中に適宜紹介する。